

# 住基カードを交付します

本年八月二十五日、住民基本台帳ネットワークシステム第二次サービスが本格稼働しました。

全国どこの市区町村からでも、本人や同一世帯員の住民票の写しが取れるようになりました。

希望者には住民基本台帳カード（住基カード）を有料で

交付しています。このカードを利用することにより、転入転出の手続きが簡単にできるなどの便利なサービスが受けられるようになります。

またこのカードには、写真付と写真なしの二種類があり、どちらか選ぶことができます。写真付のカードの場合、銀行や郵便局などで公的な本人確認の証明書としても利用できます。

## ■申請できる人

本人（原則）

## ■申請に必要なもの

本人確認書類（官公署が発行した、本人の顔写真が添付されたもの）

本人確認書類をお持ちでない人は、文書照会により本人確認します。

写真付のカードを希望される場合はカラー写真一枚（縦四・五センチ、横三・五センチ、無帽、無背景、正面向きで六カ月以内に撮影したものが一枚必要です。）

## ■申請場所

市役所本庁舎1階 市民課

## ■手数料

500円

問い合わせ先 市民課（☎ 2013209）



写真つきカード

市立病院提供

# 医療通信

Vol. 07

脳神経外科副部長

むねだ 棟田

こうじ 耕二

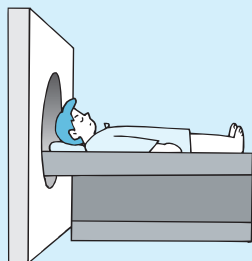


## 脳ドック

脳卒中をはじめとする脳疾患に対する意識の高まりから、現在多くの施設で脳ドックが行われています。神経学的診察、脳MRI（磁気共鳴画像）、脳血管および頸動脈のMRA（磁気共鳴血管（流）画像）が脳ドック固有のものでしょう。

60歳以上の人に限れば、受診者の25%に何らかの異常が見出されるといわれています。脳ドックで最も多く見つかる異常は脳梗塞です。そのほとんどは無症候性脳梗塞といって症状のないものですが、放置しておくとも脳卒中を発症する可能性が、無症候性脳梗塞のない人より高いといわれています。

脳動脈瘤は、脳の表面を走っている動脈のこぶです。



このこぶは人口の3%ほどに認められます。これが破れて出血するのがクモ膜下出血で、死亡率は50%という本当に怖い病気です。破裂する前に症状が出る例はごく一部ですので、予防は脳ドックしかないといっても過言ではありません。

脳腫瘍が脳ドックで見つかることはありますが、ほとんどは良性のもので、その人の健康状態や年齢、腫瘍の大きさ、発生部位などを考慮して治療方針を決めます。

なお、心臓のペースメーカーを埋め込まれている人は、MRIの検査を受けることはできませんが、最近では、CT（コンピュータ断層撮影）で血管をかなり細かく写し出せるようになってきているので、検査の方法がないわけではありません。

健康管理のためにも、ぜひ一度受けてみましょう。

※このコーナーに関してご質問がありましたら、鳥取市立病院統括課へお寄せください。

■問い合わせ先 鳥取市立病院統括課（☎ 37-1522）